

シリーズ 社会福祉法人の力を地域に

～社会福祉法人の地域における公益的な取組を紹介～

「地域の安心づくりに ～防災・減災を考える～」

社会福祉法人連絡会で共通テーマにあげられることの多い『災害』について、社会福祉法人と地域住民との連携について検討されていることを報告します。

地震対応を次につなげる

珠洲市社会福祉法人連携連絡会

今年度新たに、2つの法人が連絡会に参加し、高齢・障害・社協を運営する5法人による連絡会となりました。7月に開催した連絡会では、6月19日に発生した地震の対応について情報交換を行いました。(以下主な内容)

- ・施設の被害や職員の参集状況
- ・職員が対応した利用者(高齢者・障害者)等の安否確認について
- ・後日、通所の利用者が施設にいた場合のシミュレーションを行ったこと

情報交換を重ねる中で、発災後、利用者と電話が繋がらず、遠方まで現地確認に行ったことや、障害の特性から避難所への移動がスムーズにいかないこと等も話題にあがり、普段から法人や地域関係者との連携で、これらに対する仕組みがあったらいいという提案もありました。また、災害時には近隣の地域住民のために施設を開放してはとの声もあがりました。

連絡会では、これまでも災害時の相互支援による協定締結について話し合いを重ねてきました。今回の地震を経験し、何が課題で何を地域から求められているのかが明らかになり、「市民の命と生活を守るために法人としてできること」を今後具体的に実施することを確認しました。



社協広報誌等を利用し、住民に災害時の施設活用などを周知することも話し合いました。

災害と日常はつながっている

津幡町社会福祉法人連絡会

令和3年10月に法人連絡会を設立し、取り組みについて検討を重ねてきました。今年度は、災害に強い地域づくりを目指し、萩野台地区をモデルに、福祉施設と地域住民との連携による防災・減災活動を検討することになり、法人連絡会と関係者による事前学習会を開催しました。

学習会では、講義のほか、萩野台地区に立地するつくしの会(自閉症成人施設はぎの郷等)、能登福祉会(特別養護老人ホームふいらーじゅ等)から、日頃取り組んでいる防災の取り組みや災害時の課題などを報告いただきました。また、地区社協くらし安心づくり萩野台からは、普段の地区社協活動に加え、災害時の不安についてお話しいただきました。

参加された地区社協関係者からは「(施設を)避難所として地域に開放する予定であると聞きし、心強く安心した。我々も施設内に避難させてもらった場合、ボランティア活動で施設にお返しできるのではないかと思った。」との意見も聞かれました。



災害時の施設の強み、地域の強みをみんなで共有しました。

◇◇◇地域における公益的な取組をシリーズで発信していきます。情報をお寄せください。◇◇◇